

小型ペーパーポット苗を利用したカボチャの省力化技術

カボチャ栽培でペーパーポットを利用することで育苗スペースの縮小、育苗期間の短縮、移植作業の省力化が可能

背景・目的

- ・カボチャ栽培では、ポリポットを利用した育苗が一般的
- ・育苗に多くのスペースが必要、育苗期間が約30日と長い、移植は手作業で多くの作業時間を要することが課題
- ・小型成型苗を利用した育苗および移植作業の省力化技術を確立

成果の内容



ポリポット育苗 (慣行)



小型ペーパーポット育苗

小型ペーパーポット苗を利用することで、育苗スペースの縮小、育苗期間の短縮が可能。

※育苗スペース：
従来比3%に大幅縮小
(1,188株/㎡)

※育苗期間：
約1ヶ月から約10日に短縮

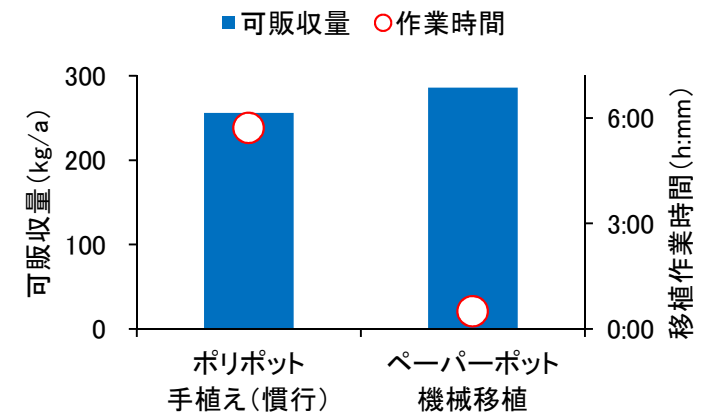


小型ペーパーポット11日育苗苗(左)と半自動野菜移植機による機械移植(右)

根鉢が形成されていなくても、紙筒により土が脱落しないため、生産性の高い若苗の半自動移植機による機械移植が可能

導入メリット

収量は維持したまま機械移植により
移植作業時間を大幅に削減



育苗資材費は低コスト

ポリポット約41円/苗 ペーパーポット約16円/苗

期待される効果

- ・苗生産および移植作業の省力化による栽培面積の拡大

普及対象・範囲
カボチャ生産者